



# AKIZUKI 秋月

ウォーターラインシリーズ NO.426  
日本駆逐艦(あきづき)  
JAPANESE NAVY DESTROYER

WATER LINE SERIES



株アオシマ文化教材社  
〒420 静岡市流通センター12番3号 TEL (054) 263-2461



くちにいけない



ひにちかづけない



おとなといっしょ

## ●組み立てる前にお読み下さい。

- 組み立てモデルですので、作る前に組み立て説明書をお読み下さい。部品を取り出した後のビニール袋は、小さな子供が頭から被った
- りすると窒息する危険がありますので、破り捨てして下さい。部品はきれいに切り取り、切り取ったあとのクズは捨てして下さい。
- 部品は、商品の都合上やむなく尖っている所がありますので危険
- です。使用目的以外は、絶対に遊ばないで下さい。特に小さなお子様のいる家庭では注意して下さい。部品の切り取りにはニッパーを使用し、バリ等の余分な部分はナイフ、ヤスリ等で仕上げます。また、ニッパー、ナイフ、ヤスリ等を不用意に取り扱ったり、刃先等で手、指、足などを切る可能性がありますので10才以下の方は、保護者の方が行なって下さい。
- 小さな部品がありますので、誤って飲み込まないよう注意して下さい。窒息などの危険があります。誤飲の危険がありますので、対象年齢未満のお子様には絶対に与えないで下さい。(接着剤、塗料を使用する場合は、下記に注意して下さい。)
- ★接着剤、塗料は口の中に入れて下さい。中毒の危険があります。  
★接着剤、塗料が目に入った時は、すぐに大量の水で洗い流して、医師に相談して下さい。  
★締め切った室内では使用しないで下さい。中毒の危険があります。  
★近くでの火の使用も絶対に止めて下さい。引火する危険があります。

### 《駆逐艦秋月について》

第一次世界大戦以後、航空機の発達は目覚ましいものがあり、兵器としての能力を高めつつあったが、戦術・戦略に与える影響にについては各国とも未知数の段階で、補助兵器の域を越えるものではなかった。各国海軍にあっても、決戦兵器は戦艦であり、戦争の勝敗は戦艦を中心とする艦隊同士の砲撃戦によって決せられる艦隊決戦主義が主流と考えられていた。このような考えが支配的であったなかで、広大な太平洋が戦場になると予測した日米両海軍は、艦隊決戦主義の補助兵力という位置付けであったものの、航空母艦の建造、艦載機の近代化に積極的であった。そして、艦隊防空については、高角戦闘機に頼るか各艦艇の対空射撃による防御方法であった。1935年イタリアはエチオピアに侵入したが、このときイタリア軍は航空兵力を大規模に投入した。この紛争により英国海軍は、航空兵力が艦隊にとつて相当な脅威となりうることを痛感し、艦隊防空には直衛戦闘機だけではなく、対空射撃を専門とする艦艇の整備が必要であることを認識した。そこで、旧式軽巡洋艦のコ

ベントリー、カーリュウの2隻を、4インチ高角砲10門を装備する防空巡洋艦に改造運用した結果、あらゆる作戦場面に使用できることがわかり、その有効性が判明した。ちょうど同じ頃、日本海軍においても、航空母艦の戦略的価値が高まり始めたのと同時に、敵航空兵力の攻撃から航空母艦をいかに防衛するかが問題となり始めていた。空母機動部隊の直衛には、旧式駆逐艦または特型駆逐艦があてられていたが、航続力・対空攻撃力・荒天時の随伴能力などの不足によって、空母直衛を専門とする艦艇の必要性が検討されだした。軍令部の描いた空母直衛艦の構想は、速力35ノット、18ノットでの航続力10,000カイリ、10センチ長砲身高角砲8門というものであった。艦政本部で実現化に向けた検討の結果、速力33ノット、18ノットでの航続力8,000カイリであれば、駆逐艦級の船体になんとかおさまることが分かった。そして、対艦攻撃力の付加という観点から、61センチ魚雷発射管1基が搭載された。これが後の「秋月」型防空駆逐艦である。秋月が完成したのは、空母機動部隊の主力空母4隻がミッドウェー海戦で撃

沈されてから1週間後のことだった。最初の任務は、セレベス島への護送任務であったが、その後ソロモン水域に進出した。このとき、B-17爆撃機3機の攻撃を受けたが、前部砲群と後部砲群がそれぞれ独立して射撃を行ない、最初の射撃で2機を撃墜する戦果を上げその真価を発揮した。秋月は、南太平洋海戦、マリアナ海戦、エンガノ岬海戦に参加した。エンガノ岬海戦において、秋月は果敢な防空戦を展開していた最中に、船体中心部より大爆発を起こし沈没した。この沈没原因については、潜水艦による雷撃、航空機の攻撃による搭載魚雷の誘爆ともいわれているが、依然として謎とされている。

### 《秋月主要目》

基準排水量 2,701トン  
水線長 132.0メートル  
最大幅 11.6メートル  
馬力 52,340馬力 速力 33.58ノット  
主砲 10センチ65口径×8  
発射管 61センチ×4  
完成年月日 昭和17年6月11日

